

激甚化する水害に対して 水防活動の情報共有が簡単にできる ～ 流域デジタル水防システム ～



流域デジタル水防システムの概要

- 「流域デジタル水防」は、LINEとGoogle Mapsを活用し、各自治体(水防団)活動の写真をリアルタイムで投稿できる仕組みであり、それらの写真は河川管理者版ツールに一元的に集約され、流域全体の災害の発生状況及び水防活動を河川管理者・関係市町村の災害対策本部等が共有可能とするもの。
- ①に②を加えた流域全体の取組は全国初の取組。

流域デジタル水防システム(全国初の取組)

①消防団・水防団用ツール

友達登録で使用可能

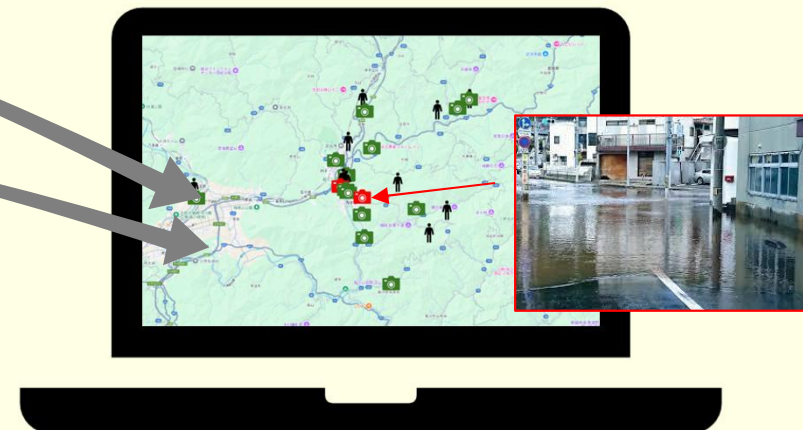


現場の災害状況や水防活動状況を
LINE上で投稿・閲覧可能



②河川管理者及び自治体災害対策本部用ツール

✓ 浸水状況の写真等を河川管理者及び
関係市町村等で共有



インターネット環境での構築・運用を想定

流域沿川の市町村の消防団・水防団が共有していた情報を
1つの地図で共有するイメージ

流域デジタル水防システム(①消防団・水防団用ツール)の概要

水防活動時の情報共有に関する主な問題・懸念点

- 参集・活動時の情報伝達手段に電話・無線を用いている団が多く、各種の情報共有に苦慮されている。
- 水防活動に役立つ情報は、気象情報や洪水に関する情報、避難に関する情報など多岐に渡るが、それらの情報を取得するためのウェブサイトが多すぎてわかりにくく、地域の情報を閲覧するのに手間がかかる。
- 電話や無線などの音声だけでは現場状況が伝わらない。
- 現場にいる団員の正確な居場所が分からない。

水防活動の初動の遅れに繋がる

デジタル水防(仮称)導入による想定される効果

- ① LINEの活用による情報の一斉共有
LINEのリッチメニューを活用することで、各種情報の共有を団員全員で可能
- ② 洪水時に役立つ情報がワンタッチで取得可能
地域の河川水位や河川ライブカメラ情報、気象情報、避難情報をワンプッシュで取得
- ③ 現場の災害状況の画像や動画をその場で地図上に登録
音声による情報共有や位置情報が不明な写真による現場情報のやりとりを地図上で団員同志で共有
- ④ 団員の居場所やコメントを地図上で共有
団員がどこに今いるのかを地図上で共有することで、効率的な水防活動の実施と団員の安否確認が可能

水防活動の初動の迅速化と
的確な情報共有に期待

デジタル水防(仮称)のイメージ画面



流域デジタル水防システム(①消防団・水防団用ツール)の概要

河川情報

ワンプッシュで当該地区の川の防災情報が閲覧可能



避難情報

ワンプッシュでの発令中の避難情報や避難所開設情報が閲覧可能(川の防災情報)



気象情報

・気象情報を閲覧可能なサイトへ直接アクセスできる機能

気象サイトの選択

閲覧する情報を選択してください。

気象庁 今後の雨 (15時間予測)

キキクル (浸水)

キキクル (土砂)

水防団員用お役立ち情報
→ワンクリックで対象自治体の関係する情報に直接アクセスし入手することが可能

流域デジタル水防システム(①消防団・水防団用ツール)の概要

新着通知機能

写真・動画・コメント投稿があった際に、登録されている団員全員に投稿内容を通知できる機能

水防マップ

団員の現在地や撮影した写真を地図に投影し、誰でも見れるマップ



水防活動情報共有ツール
→位置情報や写真、コメントなどを簡単に水防マップに共有することが可能。



位置情報送信

団員の今いる場所を位置情報を付与して、「水防マップ」に投影する機能

写真・動画送信

団員が現場で撮影した写真・動画に位置情報を付与して、「水防マップ」に投影する機能

コメント送信

・コメントのみを追加できる機能(ボタンでの選択)

※写真・動画投稿にも付与可能

コメントを選択 (手順 4/4)

写真につけるコメントを選択してください。

水位上昇中

浸水発生

土砂災害発生

通行不可能

水防活動中

流域デジタル水防システム (②河川管理者及び自治体災害対策本部用ツール)の概要

○「②河川管理者及び自治体災害対策本部用ツール」は、googlemapにLINEで消防団・水防団から登録された写真情報などが一元的に集約され、流域全体の災害の発生状況及び水防活動を河川管理者・関係市町村等で共有することが可能

投稿者：lisテスト
アカウント
日付：2025/10/31
16:10:34
危険度ランク：高
コメント：浸水発生



流域デジタル水防システムのモデル試行について

- 「流域デジタル水防システム」を、R8年度に見附市、燕市の2市でモデル地域として試行する。
出水期間等にて運用した後にアンケート調査等を行い、必要に応じてシステムや運用の仕方について改良を行う。
- R9年度に、その他の流域市町村へのモデル試行の拡大を目指す。
- モデル試行期間中のシステム管理や改良は信濃川下流河川事務所が行う。

[illegible]